

予算等審査 特別委員会



予算等審査特別委員会（議長を除く17人の議員で構成、委員長瀧本孝一議員、副委員長小林立栄議員）は、条例4件、予算4件、その他11件について付託を受け、審議を行いました。
今委員会では、今後の施策全般にわたり活発な質疑が交わされました。その結果、全19議案を原案のとおり可決しました。

農林業の振興を

問 農業を取り巻くさまざまな課題に対して、具体的な解決策が見出せず、行き詰まっているのが現状ではないか。
答 マスタープランの策定について、各地区で話し合いを行っている。若い担い手へのフォローを含め、不作付地が減少するよう取り組みたい。
問 ICTやAIの活用について方向性は。

答 費用が高額で個人での導入は厳しい。国や関係機関・団体と連携し、営農組織や法人化した組合に対して、効率化・生産性が向上するよう導入を図っていききたい。

ウィメンズ・チャイルドクリニック構想とは

問 内容は。
答 市民が安心して子どもを産み育てられるように、産婦人科・小児科クリニック、母子

の体や心のケアをする産前産後ケアセンターを一体的に整備する構想である。
問 開所予定時期は。
答 令和3年度に検討委員会を立ち上げ、構想を具体化、実現可能な方向を見出し、整備まで進めたい。

持続可能な社会の実現を目指して

問 SDGsが計画に搭載された理由は。
答 国連が定めた17個のゴールを達成することで持続可能な社会を目指し、誰一人取り残さない社会を構築することを目的にしている。国だけでなく、自治体でもこれを推進していかなければならないので計画に搭載した。
問 今後すべての事業や政策にゴール番号を付与するのは。
答 事業を進める上ではゴールを意識して進めていくことになる。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs（エスディーゼズ）とは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称。2015年の国連で決められた国際社会共通の目標。2030年までに達成すべき17の目標が挙げられている。

住民主体の地域づくり

問 各地区センターの

指定管理者制度等への移行は、市内一斉に足並みを揃え行われることが望まれるが。
答 市内全11地区、同

答 キャラクターやロゴ等、ワーキンググループからの意見を参考に、プロの感覚を活かしながら協議して進めたい。

行政改革の一環 市営住宅の指定管理

問 指定管理予定者は市外団体である。選定までの経緯は。

答 この増額は、店内装飾、備品の1000万円の追加購入費と補助率の変更によるもの。補助率を上げることに有利な財源である国の地方創生推進交付金を厚く充てるものであり、備品購入費総額6000万円のうち市が3/4、ふるさと商社が1/4の負担となる。

問 多くの耐用年数を超え、管理において慎重な検討が必要な市営住宅等を指定管理者制度に移行する。市内の団体にも相談を試みたが、残念ながら今回は申請に至らなかった。事務所の市内開設や従事者の市内雇用、施設修繕に市内業者が携わることを前提としている。

問 市の負担が増額、ふるさと商社が減額しているのは。
答 今回の補正予算案は、減額が多い。市の予算編成の考え方と今後の方向性は。

問 「市営住宅等長寿命化計画」の実行性を高めるため。
答 提案団体は県内7市の公営住宅の指定管理を担っている。市と団体との業務分担による

問 整備後、備品等を商社の所有にする理由

問 イメージ戦略をどう進めるか。

答 指定管理予定者に期待することは。

問 利用者の本を読んだり、イベントを開催したり、地域住民が活動する場として活用したい。また崩れかけている箇所があり、安全面への配慮も必要である。旧三田屋の面影や歴史を感じる空間として、一体的な整備が必要である。

問 指定管理予定者に期待することは。

問 イメージ戦略をどう進めるか。

答 指定管理予定者に期待することは。

ことが必要では。
答 震災復興、子育て、中心市街地活性化、まちづくり等、さまざまな目的を盛り込みたかった。
しかし、設置条例ということから「文化の振興」という言葉で表

現した。
問 寄附の現状は。
答 広報やホームページ、地方紙への掲載、

子ども本の森構想の具体化へ

問 市が負担する今後のハード整備は。
答 本館の本棚。現存する3つの土蔵は、それぞれ全面改修、一部改修、解体したい。また、車いすやベビーカーを利用する方への配慮として、駐車場から遊歩道の整備も必要と考えている。

問 本棚の工事、土蔵の改修に1億円以上の費用が見込まれる。土蔵の整備は必要なのか。
答 利用者が本を読んだり、イベントを開催したり、地域住民が活動する場として活用したい。また崩れかけている箇所があり、安全面への配慮も必要である。旧三田屋の面影や歴史を感じる空間として、一体的な整備が必要である。

問 イメージ戦略をどう進めるか。

答 指定管理予定者に期待することは。

問 利用者の本を読んだり、イベントを開催したり、地域住民が活動する場として活用したい。また崩れかけている箇所があり、安全面への配慮も必要である。旧三田屋の面影や歴史を感じる空間として、一体的な整備が必要である。



市役所東館庁舎には全国から寄付された本が続々と届けられている

総括質疑

市民に寄り添った予算編成を

問 今回の補正予算案は、減額が多い。市の予算編成の考え方と今後の方向性は。
答 新型コロナウイルスへの対応を急ぐため、11月臨時会で補正予算第5号として対応させていた。これで終わりはなく、3月定例会を待たず対応しなければならぬ。心積もりで、国や県の情報把握しながらタイミングを大事に進めていきたい。

時移行を進めている。指定管理者制度移行の7地区と施設を持たない4地区の、双方とも基本は住民主体の地域運営となる。全地区一斉に、今年度末で職員は引き上げる。
問 鱒沢地区は地区センターがないまま、地域運営となる。運営拠点施設が未整備で、他の地区と足並みが揃っていないと捉えるのか。
答 地域づくりは、他の地区と平行に進める。地区センター整備については、交通の要衝などの地域特性を踏まえ、単なる施設整備に留まらず、広域的な地域振興と活動の場とし、全体の整備計画を検討している。後期5か年計画にも挙げており、早期にすすめる。

子ども本の森 条例に理念は

問 沿岸部の震災復興が背景としてあるなどの経緯が表現されていない。条例に盛り込む

は。
答 指定管理施設の備品は、本来市が全額負担すべきものではあるが、協議をして商社側にも一定の負担をしてもらうことで修繕や維持管理に責任が発生する。